

日本語学オリンピック 2016 解答

国際言語学オリンピック日本委員会

2016 年 4 月実施



2016 年度の日本語学オリンピックは、同年の北米予選 (NACLO) の選抜試験 (Round 2) から (R) “Changing the Subject” が Question A (15 点) として、(I) “Deriving Enjoyment” が Question B (22 点) として出題されました。NACLO による公式の解答は <https://nacloweb.org/resources/problems/2016/NACLO2016ROUND2SOL.pdf> で見る事ができ、いくつかの些細な点を修正した上で日本語訳を掲載します。

Question A

- (a) baray (b) baajiday (c) bi'iday (d) bilaabtay (e) cunay
(f) daaqday (g) dhacday (h) faraxday (i) gashay (j) go'day
(k) helay (l) kacday (m) qaaday (n) xidhay (o) walaaqday

Question B

- (a) bivol (b) božič (c) grmič (d) knjižica (e) mušica (f) orlič
(g) oslica (h) otročič (i) ovnič (j) Pavlič (k) rak (l) Štefan
(m) Tomažič (n) trn (o) vetrič (p) vršič (q) zidič (r) žepič

B2 rož, rog (順不同)

B3 čoln, čolen (順不同)

Question A

一人称は語幹に -ay を付けることで、三人称は語幹に -tay を付けることで形成されます (2, 3, 6, 9, 10, 11, 12, 15, 25, 28) が、その際に形態音素的な変化がいくつか生じます：

- いわゆる喉音を表す q (6, 13, 30), c (14, 24), x (7, 18), ' (4, 21) の後では t が d に変化します。c で終わる例が与えられていないので、(g) と (l) を解答する上では c が無声の x と同じように振る舞うことを認識する必要があります。
- y で終わるように見える語幹は y を削除し (実際には y は母音で終わる語幹に付いて一人称を形成しますが、そのことをデータから読み取ることはできません) t を d に変化させます (1, 5, 8)。
- l で終わる語幹は lt を sh に変化させます (17, 20, 22)。
- d または dh で終わる語幹には -ay を付けます (16, 19, 23, 26, 27, 29)。

記述は求められていないので、たとえば三人称が、次に示すような例外を除いて -day を付けること、または ay の前に d を挿入することにより形成されるとするような、首尾一貫した別解について気にする必要はありません。

- d は b, g, n, r, s の後で t に変化します。
- (語幹末尾の) y を削除します。
- l で終わる語幹は, ld を sh に (または -lay を -shay に) 変化させます。
- d または dh で終わる語幹には -ay を付けます。

Question B

派生形は一定のルールの集合に基づいて形成されているので、指小形や人名の派生形が接尾辞 -ič により、女性形が接尾辞 -ica により示されることがわかります。

名詞がすでに女性形であれば (すなわち語尾が -a であれば) 後者の接尾辞は (少なくとも与えられたデータでは) 指小辞の意味を持ちます。

さらに k から č, g から ž, h から š への子音変化 (口蓋化) があります。これは語尾が -a であろうとなかろうと起こります。与えられたデータ (volk, roka, -g, noga, menih/Urh, -ha) では必ずしもすべての場合が示されているわけではないので、このルールが両方の性に適用されると推測する必要があります。

そして e + 子音で終わる多音節の語幹は e を削除します。

- B2 指小形からは、その語幹が (bog のように) 口蓋化を経たのか (Primož のように) そもそも ž で終わっていたのかわかりません。実際には rog です。
- B3 指小形からは、その語幹の最終音節に e があったのかどうかわかりません。実際には čoln です。

! (a) について bivola も可能な解答だと思われるかもしれませんが、しかしデータには -a で終わる単語に「女性形」を意味する接尾辞 -ica が付いている例がありません。そのような場合の派生語はすべて指小形です。これは (少なくともこのデータでは) 女性形の語幹がすべて -a で終わるからです (ただしスロベニア語における一般的な規則ではありません)。たとえば živalica という語は「雌の動物」ではなく「小さい動物」を意味しますが、これは語幹 žival が実際には (すでに) 女性形だからです。